

地域活性化に繋がる政策提言・地域社会貢献活動を情報発信しよう

高校生、大学生、企業、行政、地域でつくろう！

「希望」のある北海道の未来

北海道学生研究会 SCAN

(Sophisticated Community and Academics for Networking)

北海道学生研究会 **SCAN**

2022 年度実施企画

(暫定版)

2022年11月18日現在

SCAN 運営実行事務局(2022)

北海道学生研究会 SCAN2022 大会開催に向けて

代表挨拶

拝啓

この度、北海道学生研究会 SCAN 第 12 期 運営代表を務めさせていただきます、札幌大学地域共創学群 経営学専攻 3 年の奥寺 洸矢 (おくでら こうや) です。運営役員も代替わり致しましたのでご報告させていただきます。

さて、おかげをもちまして、北海道学生研究会 SCAN は今年で 13 年目を迎えることができました。昨年度は皆様の新型コロナウイルス感染拡大防止のご協力により、合同研究発表会を開催することができました。今年度は新たに、ハイフレックス化による合同研究発表会を開催いたします。

今後とも弊会をご支援くださります皆様に期待される研究発表会となるよう運営役員一同、努めて参りますので、今後とも何卒ご指導ご鞭撻を賜りたくお願い申し上げます。

まずは、略式ながら書中にてご挨拶申し上げます。

敬具

北海道学生研究会 SCAN(第 13 期)

学生運営代表 奥寺 洸矢

令和 4 年 6 月 30 日

北海道学生研究会 SCAN2022 大会開催に向けて

顧問挨拶

北海道学生研究会 SCAN は、2017 年に釧路公立大学より合同研究発表会等の大会運営事務局を札幌大学に移りました。それ以来、大会運営事務局の顧問を務めています。

札幌大学に運営事務局が移転して今年、2022 年は 6 年目を迎えますが、今年も合同研究発表会(第 13 回) 開催に向けて今年も学生主体で運営事務局をサポートしています。

2022 年はウィズコロナに大きく舵を切った年となりました。

北海道学生研究会 SCAN は、毎年、環境変化に翻弄されつつも、常にあるべき姿を探りつつ、新たなチャレンジをしてきました。今年の大きなチャレンジは面着とオンラインの併用による、ハイフレックス大会の開催です。

2019 年までの第 10 回大会までは対面による発表会開催が当たり前でありましたが、コロナ禍でオンライン方式による会議方式が常態化したことにより、時代は大きく様変わりしました。

コロナ禍は私たちに大きな試練を与えましたが、その試練を乗り越えた先には、オンライン大会の開催を通じて地域経済や地域の活性化を考える全国の仲間とつながる機会が待っていました。今後も道内の大学や高校に限らず、本州の大学や高校にも関心を持っていただき、また地域を超えた連携を深め、北海道学生研究会 SCAN を介した関係人口の創出に邁進していきたいと考えています。

北海道学生研究会 SCAN は、日頃ご指導やご支援を下さっている先生方、自治体の皆様、企業関係者様の温かい励ましやお力添えあってのものと理解しています。今後とも何卒、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

北海道学生研究会 SCAN 顧問／
札幌大学地域共創学群 経営・会計学系教授
中山 健一郎
令和 4 年 9 月 1 日

第 13 回(2022)合同研究発表会テーマ 「今から始める地域活性化」

【テーマの説明】

第 13 回大会テーマについて説明します。

北海道学生研究会 SCAN が開催するこの合同研究発表会では、毎年、共通テーマを設定し、共通テーマに沿った研究発表が行われてきました。

今大会では、ポストコロナを見据えた地域活性化について今から考え、行動することが社会にとって大切であるという考えから、「今から始める」というワードをテーマに加えました。また、高校生や道外の学生からの幅広い研究発表が行われることを期待して、研究範囲を狭めないテーマを意識しました。

2019 年に生じた、Covid-19 により世界的規模でヒトやモノの移動が制限され、観光・宿泊業や飲食業では大きな経済打撃を受ける中でニューノーマルといわれる、新しいスタイルの常識が生まれるようになり、在宅テレワークやリモート・オンライン会議が日常化しました。

新型コロナウイルス感染症が長期化する中、北海道はウィズコロナへの対応やポストコロナを見据えた「新北海道スタイル」の普及促進を行っているほか、事業者・経営者は、経営不振を経営方針の分析や見直し、技術の導入などを行う好機とする例も見られます。

観光業についても、UNWTO、IATA(国際航空運送協会)は、2023 年半ばから 2024 年頃には全世界の観光需要がコロナ禍以前まで回復すると予測しており、北海道では既にインターネットや SNS 等を用いた情報発信による戦略的な海外路線回復プロモーションが展開されています。

産業・観光分野でのウィズコロナ、ポストコロナ対応がまさに今着手されていることから、ポストコロナ時代の地域活性化への提案はまさに今行われるべきであり、その提案を学生から行うことに大きな意義があります。

これからの地域活性化の手段として、リモートワーク・テレワークの普及に伴うワーケーションの充実に加えて、IT や VR など新たな技術を積極的に取り入れること、魅力的なモノの提供と同様に体験・経験の提供が求められており、これらの活用には柔軟な発想力と積極的な地域研究が大切になると考えています。

今大会では、コロナ禍によって明らかになった北海道の弱みと強みを活かして、ウィズコロナ・ポストコロナに向けた地域の再スタート・再構築の可能性について考えていきましょう。

●大会審査員

企業名・自治体名	所属・役職	審査員
経済産業省 北海道経済産業局	総務企画部 企画調査課	小玉 龍之介 様
(株) 北海道銀行	地域創生部	稲上 巧 様
(株) 北海道新聞社	営業統括本部 マーケティングセンター専任職	結城 敦史 様
(株) 北海道二十一世紀 総合研究所	調査部・特任審議役	木本 晃 様
岩内町 建設経済部観光経済課	観光係長	中川 貴嗣 様
一般財団法人北海道開発協 会 開発調査総合研究所	所長	黒崎 宏 様
北海道財務局	総務部 企画調査官	石川 裕之 様
札幌大学	教職課程・教員養成コース 女子短期大学部 キャリアデザイン学科	鈴木 恵一 様
釧路市	総合政策部長	菅野 隆博 様

●特別協力企業(2021年度実績)

経済産業省 北海道経済産業局

(株)北海道銀行

(株)北海道新聞社

株式会社タカジン

北海道 21 世紀総合研究所

北海道鷹栖町

(株)釧路新聞社

●参加企業・団体

(一社)岩見沢市観光協会

株式会社 KOYA.lab

当別町

合同会社オフィスくりおこ

津別町

学校法人 札幌大学

…今後も協力企業の拡大に努めて行きます。地域社会貢献、地域活性化に力を入れている企業、SCAN 活動を応援して下さる企業を中心に活動 PR を行っていきます。

事業の紹介

○第1回ハイフレックス合同研究発表会（通算第13回大会）

…日頃の北海道での地域活性化、実践的な地域社会貢献の活動成果、研究成果を披露する大会です。今年度は、オンライン(Zoom を予定)と対面を組み合わせたハイフレックス開催を予定しています。北海道の地域活性化に実践的な地域社会貢献への取り組みを行っている、あるいは関心を持つ全国の大学生や高校生を対象に呼びかけ、研究発表、活動報告、聴講参加を募ります。

開催日:12月3日、12月4日

場 所:オンライン(zoom)

参加費:大学生1チームあたり1500円、高校生1チームあたり500円

SCAN とは何か？

SCAN は「Sophisticated Community and Academics for Networking」の略称。地域に住む住民、企業、自治体と大学が結びつくことによって、よりよい地域、コミュニティを作っていこうという想いが込められており、道内の大学を中心に地域社会の発展に資する研究を行うことをいいます。SCAN の運営は学生主体で行っており、大学教員が顧問としてサポートしています。

(1)活動の目的

地域活性化に繋がる地域社会貢献活動を情報発信することが活動目標です。そのために以下の活動をおこないます。

(a)日頃のゼミでの研究活動を披露しあい、各大学ゼミの相互研鑽を図ります。

(b)研究活動を通じて地域行政や住民、企業との交流を深め地域社会貢献に資する活動を行います。

(c)地域活性化につながる政策提言を行い、北海道の地域発展に資する貢献を行います。

(2)活動の特徴

- (a)地域研究に意欲的に取り組み、実践的な活動を行っている全道主要大学のゼミが参加します。
- (b)年1回、一同介して日頃の研究発表をおこないます。
- (c)2010年に発足以来、これまでに11回を開催。参加大学は道内だけでなく、道外からの参加大学もあります。
- (d)これまでSCANでの発表の傾向は、「課題研究発表」でしたが、今年は「社会貢献度」に変化してきています。但し、実現可能性の面でやや弱く、アイデア段階に留まる研究もあります。
- (e)2017年度より主催校が変更しています。釧路(釧路公立大学)から札幌(札幌大学)に運営事務局を変更しています。

(3)SCANの研究視点

- (a)北海道の地域活性化
- (b)政策提言
- (c)実践的な地域社会貢献
- (d)学生ならではのユニークなアイデアの創出
- (e)地域住民、行政、企業、大学が結びつき、よりよい地域、コミュニティを形成。

○SCANの魅力ー参加のメリット

参加大学生

- ①大学の最新の発表事例に触れ、今、大学生が地域社会貢献に何をすべきかを知り、仲間を得る機会があります。
- ②地域企業や関係機関、行政との直接的交流の場があり、普段の疑問や今後の活動について協力、参画の機会があります。
- ③事例発表を行う学生には同世代の各大学の学生との交流のほか、研究発表を通じて審査員からの助言や各関係機関、企業からの助言を得て、相互研鑽、相互扶助の場を得ることができます。

参加高校生・高校教員

- ①地域志向、地域の将来を真剣に考える大学生との交流ができます。
- ②大学でどのような研究が行われているのか、そもそも大学とは何か、地域社会貢献に取り組む大学の姿勢を見ることができます。
- ③協賛企業との接点や交流ができ、地域社会貢献に熱心に取り組む企業の活動や取り組みが理解できます。
- ④各高校での取り組みをこのSCAN活動を通して発信できます。

参加企業／協賛自治体／各関係機関

- ①参加学生や高校生、高校・大学教員に対して企業活動や社会貢献への取り組みをPRできる機会があります。
- ②今日の学生や高校生が地域の活性化、地域振興にどんな取り組みをしているのか、またどのようなことに関心を持っているのかをオンライン対話により知る機会があります。
- ③SCAN活動の情報を逐次提供します。
- ④各大学に課題先進地域の調査研究等と呼びかけていきます。
- ⑤大学ゼミの取り組み情報を提供していきます。

●発表資料形式の標準化

今年度は審査員による審査付き発表については、発表方法・資料作りの標準化を図ります。発表者には以下の流れで資料を作ってください。

テーマ紹介

→現状分析(データ分析)→課題・問題点の導出→(既存研究の成果・・・必要に応じて)

→アイデアを披露→実現性の検討

例)

テーマ紹介	伝えたいこと、結論を題名にする。 大学名、チーム名、メンバー名を明記する。 目次は発表の流れを、数字を振るなどしてわかりやすく示す。 研究した事柄、テーマに至った経緯などを短くまとめる。
現状分析	現状のデータをグラフや表などを用いて分析し、文章化する。 使用したデータの出所を明らかにする。 〈例:(出所)〇〇より作成〉
課題・問題点の導出	現状分析で示したデータをもとに、課題・問題点を示す。 アイデアの独自性、斬新さも評価の対象となる。
既存研究の成果	テーマに関連する過去の事例、研究等を示す。 発表内容によって、事例を好例、悪例とするのは自由である。 また、必ずしもこの項目を発表に組み込む必要はない。
アイデアを披露	現状分析、課題の導出で認識した問題に対する解決法を示す。 政策提言、アイデア提言にはデータの裏付けを重視する。
実現性の検討	披露するアイデアについて、 どれくらいの費用や労力、時間を要するのか？を明確にする。

●参加大学と発表テーマ

大学名	ゼミ	参加者	タイトル・テーマ
旭川大学	黒川ゼミ	本多寿樹・高松治斗・加納光・井澤葵	旭川市デジタル化推進の現状分析と改善提案 ～デジタル田園都市国家構想に基づく高齢者へのアプローチ～
釧路公立大学	神野ゼミAチーム	阿部康大・梅津圭祐・柴田崇史・樋口信輝	釧路元町フットパスにおけるガイドシステムの構築
	神野ゼミBチーム	安藤晃・伊藤龍平・神将	ニュータウンの街区公園のこれまでとこれから —釧路市美原地区を事例として—
	神野ゼミCチーム	堀田良輔・藤田哲成・木村耕大・小河原慎平	釧路川リバーサイドの利用による北大通商店街の活性化
	東ゼミAチーム	伊東頼毅・及川孝太朗・河本翔龍・高橋美南海・倉颯汰	釧路市の域内経済循環の拡大と基盤産業の復興
	東ゼミBチーム	高島彰大・吉田智将・渡辺敦也・渡邊泰地・木村奎亮	釧路市の紙・パルプ産業の衰退と今後の産業
	東ゼミCチーム	岡田柁都・鎌田凌世・亀山祥大・小西創大・其田晃季	釧路市における自主財源の確保 ～ふるさと納税の可能性～
	東ゼミDチーム	伊藤征之介・藤村祐汰・伊藤正義・野村駿介・藤原侑大	釧路市中心街における地価からみた現状 ～再開発に向けた展望～
久留米大学	穴澤ゼミ	長廣咲那	私のふるさと田川市の過去・現在・未来 —旧産炭地の活性化に向けて—
札幌大学	梅根ゼミAチーム	太田尋也・福原悠人・日下部紫音・中川廣	ふるさと納税寄附金はどこへ
	梅根ゼミBチーム	佐藤里咲・青山響・久保田凌・中川真士	アニメから生まれる地域の魅力
	梅根ゼミCチーム	土谷和輝・大山主馬・高橋祥太郎	コロナ禍の道内企業への影響
	梅根ゼミDチーム	松田優生・小坂太陽・伊井悠・森脇瑠生	北海道の大学における奨学金と延滞問題の現状と今後
	中山ゼミ	伊藤天晴・大坂竜之介・横湯優人・味噌惇人・新鞍柁人	キャンプワーケーションによる地域活性化 —Koya.lab プロジェクトの事例から
	武者ゼミAチーム	伊藤蓮・大野彩乃・白川楓・田中廉・福西柁哉	労働環境改善～人手不足問題について～
	武者ゼミBチーム	楠崇央・川田夢乃・曾我風歌・中田将成・キムユンタク	コンサドーレ札幌による地域活性化
鳥取大学	馬場ゼミ	宮廻敦樹・浅田竜輝・岩倉颯美・山名康大	恋山形駅恋みくじプロジェクト
函館大学	佐藤ゼミAチーム	中川滉生・菊谷龍汰・中村志輝・村田楓斗	函館市の銭湯を利用した地域活性化について
	佐藤ゼミBチーム	中村侑人・山口遥香・岩崎翔汰・石田ろみ・佐藤葵・外山裕大	「S to S」買い物支援サービス ～坂道高齢者の外出機会のロスを減らさないために～
北星学園大学	藤井ゼミ	笹村優斗・笹村太河・千葉良太・大石航平・渋谷美友・高慶愛梨	北海道の雪の有効活用と価値計測
北海学園大学	大貝ゼミAチーム	佐藤平・栗林優太・村川愛美・小林祐奈	田園回帰による地域活性化
	大貝ゼミBチーム	杉本のどか・小原梨紗・佐藤優樹・安田麻優	地域資源の活用による地域活性化
	大貝ゼミCチーム	山家遥馬・石川快・太田瑞季・森園景斗・澁谷柁・野中創太・高橋優誠・齊藤颯	十勝の経済からみた地域活性化の在り方
	宮島ゼミ	飯田康心・齊藤皓大・糸瀬寛人・眞壁尚史・合羽井駿太	清水町から学ぶ地方創生と6次産業

●タイムスケジュール案(12月3日～4日)

7月30日時点のタイムテーブル案です。発表チームの状況により変更があります。変更がある場合にはHP等で随時お知らせします。なお当日は規約に基づき、総会を実施する予定です。

1日目プログラム/タイムテーブル

12/3 (土)		司会者	吉川	亀井	川久保	上野
会場 対面会場		第1会場	第2会場	第3会場	第4会場	
		プレアホール	8102教室	8202教室	8302教室	
	オンライン会場 上：ミーティングID 下：パスコード	834 5252 0263 SCANPrea01	880 1993 7333 SCAN8102	843 8873 6536 SCAN8202	842 8701 4048 SCAN8302	
8:45-9:20	35分	開場・受付	※全参加者は 第1会場/プレアホール にお集まりください。			
9:20-9:50	30分	開会式				
9:50-10:05	15分	ルール説明				
10:05-10:15	10分	各会場へ移動				
10:15-10:30	15分	司会者・審査員挨拶				
10:30-10:35	5分	第1会場発表準備				
10:35-10:50	15分	第1発表	函館大学 佐藤ゼミ Aチーム	釧路公立大学 神野ゼミ Bチーム	札幌大学 武者ゼミ Bチーム	札幌大学 梅根ゼミ Dチーム
10:50-11:00	10分	質疑、審査員講評 第2発表準備				
11:00-11:15	15分	第2発表	釧路公立大学 神野ゼミ Aチーム	札幌大学 梅根ゼミ Bチーム	釧路公立大学 東ゼミ Cチーム	北海学園大学 大貝ゼミ Cチーム
11:15-11:25	10分	質疑、審査員講評 第3発表準備				
11:25-11:40	15分	第3発表	釧路公立大学 東ゼミ Aチーム	久留米大学 穴澤ゼミ	札幌大学 梅根ゼミ Cチーム	函館大学 佐藤ゼミ Bチーム
11:40-11:50	10分	質疑、審査員講評 第4発表準備				
11:50-12:05	15分	第4発表	鳥取大学 馬場ゼミ	札幌大学 武者ゼミ Aチーム	北海学園大学 大貝ゼミ Bチーム	釧路公立大学 東ゼミ Dチーム
12:05-12:15	10分	質疑、審査員講評 昼休憩アナウンス				
12:15-13:10	55分	昼休憩 第5発表準備				
13:10-13:25	15分	第5発表	札幌大学 梅根ゼミ Aチーム	釧路公立大学 東ゼミ Bチーム	釧路公立大学 神野ゼミ Cチーム	北星学園大学 藤井ゼミ
13:25-13:35	10分	質疑、審査員講評 第6発表準備				
13:35-13:50	15分	第6発表	旭川大学 黒川ゼミ	北海学園大学 大貝ゼミ Aチーム	北海学園大学 宮島ゼミ	札幌大学 中山ゼミ
13:50-14:00	10分	質疑、審査員講評 移動アナウンス				
14:00-14:15	15分	プレアホールへ移動・休憩				
14:15-15:45	90分	企業PR・講演会 (審査会)				
15:45-16:00	15分	2日目ガイダンス				

※トラブル等により、発表時間が前後する可能性があります。

※水色の枠組はオンラインでの参加チームです。

2日目プログラム/タイムテーブル

12/4 (日)		司会者	吉川
会場	対面会場	第1会場 プレアホール	
	オンライン会場 上：ミーティングID 下：パスコード	810 3156 5452 SCANPrea01	
時程	9:30-10:00	30分	開場・受付
	10:00-10:15	15分	ルール説明・ガイダンス
	10:15-10:20	5分	司会者挨拶
	10:20-10:30	10分	審査員挨拶
	10:30-10:55	25分	1日目審査結果発表
	10:55-11:05	10分	休憩
	11:05-11:10	5分	第1発表準備
	11:10-11:30	20分	第1発表
	11:30-11:40	10分	質疑応答及び次の発表準備
	11:40-12:00	20分	第2発表
	12:00-12:10	10分	質疑応答及び次の発表準備
	12:10-12:30	20分	第3発表
	12:30-12:40	10分	質疑応答
	12:40-13:35	55分	休憩
	13:35-13:40	5分	第4発表準備
	13:40-14:00	20分	第4発表
	14:00-14:10	10分	質疑応答
	14:10-15:00	50分	SCAN大抽選会 (審査会・総会)
	15:00-15:10	10分	休憩・賞状作成
	15:10-15:25	15分	表彰式
	15:25-15:35	10分	閉会式

※審査会は8402教室、総会は、8102教室で行います。

○オンライン参加用 Zoom URL

○12月3日（土）

第1会場（ミーティング ID：834 5252 0263 パスコード：SCANPrea01）

<https://us06web.zoom.us/j/83452520263?pwd=T2hrbnhhRDlnYjVzYVhsTIVObjArZz09>

第2会場（ミーティング ID：880 1993 7333 パスコード：SCAN8102）

<https://us06web.zoom.us/j/88019937333?pwd=M3lPdXJwcDVSYi9McmdRTE5obCtUUT09>

第3会場（ミーティング ID：843 8873 6536 パスコード：SCAN8202）

<https://us06web.zoom.us/j/84388736536?pwd=S3hCanpvMzk0d2RWOHZGaFhRTEl0dz09>

第4会場（ミーティング ID：842 8701 4048 パスコード：SCAN8302）

<https://us06web.zoom.us/j/84287014048?pwd=Y0UzanlzZkpOVDVaYTFGR0hReVRyUT09>

○12月4日（日）

第1会場（ミーティング ID：810 3156 5452 パスコード：SCANPrea01）

<https://us06web.zoom.us/j/81031565452?pwd=Q3lvc1NIWmVkdGFyakpHQ3JpdmFwUT09>

○これまでの活動実績（2010年～2020年 研究大会）

(1) これまでの研究テーマと優秀事例発表

一貫して地域をテーマにして大会テーマを設定してきた。

第1回(2010)合同研究発表会テーマ「地域」(2010年12月18日)

・学生団体の組織の設立。従来にない学生と地域の新たなつながりを創出して、地域に関する研究を行う。

第2回(2011)合同研究発表会テーマ「再生」(2011年12月10日)

・東日本大震災における多大な被害からの再生・復興や、地域の諸問題について様々な視点から再生・発展を目指す。

第3回(2012)合同研究発表会テーマ「連携」(2012年12月8日)

・新たに理系大学を加え、札幌でのカレッジフォーラムの開催を試み、学問と地域間の壁を越える連携を目指す。

(優秀論文賞)

「地域医療連携における自治他病院の役割」

(札幌学院大学 加藤ゼミ)

「地域活性化のために地方大学に求められる意義と役割—経済・教育・研究の観点からの考察

(釧路公立大学 下山ゼミ)

「北海道新幹線についての考察—札幌延伸が地域に与える影響と課題」

(札幌大学 武者ゼミ)

第4回(2013)合同研究発表会テーマ「北海道の魅力～発見と活用～」(2013年11月30日)

・新たに道外大学を加え、10大学が参加。北海道の魅力や地域の諸問題について研究を行う。

(優秀論文賞)

「旅行先選択行動の実証分析-根室地域における研究旅行の可能性」

(釧路公立大学 下山ゼミ)

「北海道の自然エネルギー利用による地域の持続可能な発展の可能性」

(釧路公立大学 神野ゼミ)

「釧路管内における小児ワクチン接種の現状と摂取率向上のための課題」

(釧路公立大学 皆月ゼミ)

「消費者に北海道の旬を伝えるタッチポイントデザイン」

(公立はこだて未来大学 高度 ICT 海洋系)

第5回(2014)合同研究発表会テーマ「北海道の可能性」(2014年12月13日)

・従来の課題研究型から政策提言型への移行、最優秀論文を設ける。質の高い北海道の可能性について研究。

(優秀論文賞)

「僻地、広域な地域における心臓リハビリテーション患者向けアプリケーションに関する研究

-北海道の事例に基づいた構築-

(釧路公立大学 皆月ゼミ)

「持続可能な別海酪農についての考察」

(北海学園大学 大貝ゼミ)

「まちづくり型観光 ～フットパスによる内発的發展～」

(釧路公立大学 神野ゼミ)

「観光資源の再発見 ～ないところにあるもの～」

(北海学園大学 大貝ゼミ)

第 6 回(2015)合同研究発表会テーマ「地方創生と向き合う」(2015 年 12 月 12 日)

・「釧路地域研究助成」を受け、従来の一般セッションに加えて釧路地域研究成果報告セッションを設けた。

(優秀論文賞)

「ニセコに学ぶ地方創生のあり方と課題」

(札幌大学 中山ゼミ)

「フットパスが呼び覚ますコミュニティの多面的機能

—釧路市橋南地区を題材として—

(釧路公立大学 神野ゼミ)

第 7 回(2016)合同研究会発表会テーマ「スポーツといきる地域」

・東京五輪を4年後に控え、我が国のスポーツへの関心が深まる中で様々な分野に横断的なスポーツについて研究する。北海道経済産業局主催の RESAS 分析フォーラム第 1 回大会に初参加。

(優秀論文賞)

「地域特性に応じた総合型地域スポーツクラブのモデル提案～釧路におけるスケートを視点として～」

(北海道教育大学釧路校 内山ゼミ)

「橋南地区フットパス～地域と健康～」

(釧路公立大学 神野ゼミ)

「地域経済における交通網のネットワーク効果」

(釧路公立大学 下山ゼミ)

第 8 回(2017)合同研究発表会テーマ「地域イノベーション」

(サブテーマ:「地域特性の活用」、「スポーツコミュニティ」)

・地域の潜在的な資源の活用、掘り起しを通じてイノベーションの観点から地域振興のあり方を見直す研究。北海道経済局主催の RESAS を活用した政策アイデア創出セミナー(2017.10.6)に参加。和歌山県主催の「第 1 回データ利活用コンペティション」の最終選考会に出場。協賛企業 NEC 賞を受賞。

(優秀論文賞)

「高校野球と地域活性化～甲子園出場は地域を元気にするか～」

(釧路公立大学 下山ゼミ)

「地域活性化に若者は必要。美唄市の滞在・交流人口の増大化への提言」

(札幌大学 中山ゼミ)

「シカの経済学—動物資源の経済的評価—」

(奈良県立大学 下山研究室)

第 9 回(2018)合同研究発表会テーマ「地域コミュニティ」

(優秀論文賞)

まちあそび「人生ゲーム」を通じた地域コミュニティの創出と交流人口拡大 ～岩見沢市商店街編～

(札幌大学 中山ゼミ)

統合型リゾートを日本で導入することの是非

(札幌大学 武者ゼミ)

地域愛の創出 ～廃校活用イベントによる実践的研究～

(北海学園大学 宮島ゼミ)

ご朱印めぐりが与える社会的経済的影響 —奈良市全域の実態調査を通じて—

(奈良県立大学 下山研究室)

第 10 回(2019)合同研究発表会テーマ「持続可能な地域づくり」

・近年、国や国際団体だけでなく、地域や教育機関でも取り組まれている持続可能な開発目標(SDGs)に着目し、持続可能な地域づくりについて研究。

(最優秀賞)

「マッチングアプリを活用した空き家問題の解決及び地域活性化の推進」
(釧路公立大学 東ゼミ C)

(優秀賞)

「ゲームを用いた環境教育の価値推計」
(北星学園大学 野原ゼミ B)

(優秀賞)

「国際化する現代社会において札幌市が目指すべき都市計画」
(北海学園大学 宮島ゼミ)

第 11 回(2020)合同研究発表会テーマ「持続可能な地域づくり」

(最優秀論文賞)

道新地域アイデア賞

「持続可能な地域づくりのためのナッジ理論を応用した環境配慮型行動の推進」
(北星学園大学 野原ゼミ A)

北海道銀行地域創生部賞

「北大通活性化～中心市街地に若者を呼び込むには～」
(釧路公立大学 神野ゼミ B)

北海道観光を考えるみんなの会賞

「釧路市に最適な TMO の事業～釧路市・福井市の相互比較より～」
(釧路公立大学 東ゼミ A)

(SCAN 特別賞)

「西部地区活性化を目的とした EV 車を利用した新交通の提案」
(函館大学 佐藤ゼミ)

第12回(2021)合同研究発表会テーマ「関係人口はどう作るべきか？ーワーケーション元年と地域ー」

(最優秀論文賞)

「ワーケーションと地域活性化 リテンションモデルの探索～八雲まるごとサブスクの提案～」
(函館大学 商学実習佐藤班)

(優秀論文賞)

「企業誘致と地域の活性化」
(釧路公立大学 東ゼミ C)

「釧路アースダイバー ～歩いて体感する釧路の歴史の層～」
(釧路公立大学 神野ゼミ A)

「公共空間の創出と住民意識～ノーマライゼーションを目指した釧路市美原地区の40年とこれから～」
(釧路公立大学 神野ゼミ B)

○SCANの実績—研究発表の成果がどう実現したのか

第9回(2018)合同研究発表会 優秀論文賞受賞

まちあそび「人生ゲーム」を通じた地域コミュニティの創出と交流人口拡大 ～岩見沢市商店街編～

(札幌大学 中山ゼミ)

札幌大学の中山健一郎教授のゼミナールAチームによる研究が、昨年に続き、優秀論文に輝きました。

岩見沢市の人口減少に歯止めがかからない中、駅前商店街の撤退や廃業により、空き商店が増え、荒廃化が進んでいます。それとともに、店主の高齢化による事業承継者不足の問題が深刻化しています。こうした中、岩見沢市ではまちなか再生計画を推進するものの、思うような効果が出ていませんでした。本研究では2012年からまちなか活性化の取り組みの一つとして、島根県出雲市ではじまった「まちあそび人生ゲーム」を岩見沢商店街に持ち込みました。岩見沢商店街の地域分析を踏まえた上、アレンジし直すことで、普段は人通りの少ない商店街に地元の人のみならず遠方からも人を呼び込む試みとして「まちあそび人生ゲーム」を開催いたしました。

この研究が実現するには、岩見沢青年会議所を中心に商店街や学生が協力をすることが不可欠でした。この研究が実現し、成功をおさめたのは、企業と学生が協力することができたからです。

○参加実績のある大学と高校の一覧

- ・札幌大学
- ・北海学園大学
- ・北星学園大学
- ・札幌学院大学
- ・釧路公立大学
- ・北見工業大学
- ・名寄市立大学
- ・久留米大学
- ・WhosexFoods Project
- ・函館大学
- ・公立ほこだて未来大学
- ・北海道教育大学釧路校
- ・大阪経済大学
- ・島根県立大学
- ・奈良県立大学
- ・新陽高等学校
- ・郁文館高等学校

○SCAN の発展ビジョン

第1期(釧路公立大学運営事務局期間)

第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回
2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
釧路で SCAN 発足		理系 大学 参加	道外 大学 参加	最優秀 論文賞 設置	研究助成研究 着手	RESAS フォ ーラム 参加
合同研究発表会を 釧路公立大学にて開催						
課題研究を重視				政策立案型研究にシフト		
単一地域・アイデア・分析重視					複数地域、 地方自治体との 連携	

第2期(札幌大学運営事務局期間)

第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回
2017	2018	2019	2020	2021	2022
札幌に事務局移転	高校生チーム初 参加	第1回 ワークショップ開 催	第1回 オンライン 大会開催	第2回 オンライン 大会	第1回 ハイレックス 大会開催
札幌大学で合同研究発表会 釧路公立大学でインターカレ ッジフォーラムを開催	札幌大学で合同研究発表会		オンライン大会を開催		ハイレックス 大会を開催予定
実現可能性の検討を取り入れた政策提言の研究を重視					
経済産業省北海道経済産業局, 北海道銀行, 北海道新聞社はじめとする地域金融機関, 地域企業の協賛・協力をもとに開催。					

●事業発展将来計画

- (1) SCAN の知名度を高め、SCAN に協賛する企業、参加校、高校を増やします。
- (2)SCAN 参加校、高等学校の枠組みをつくります。
- (3)SCAN 参加校、高等学校の共同研究あるいは、参加校、高校の枠を超えた地域研究の促進を図ります。
- (4)地域との連携を深め、課題先進地域をはじめ、地域の課題に向き合い、学生や高校生の視点から地域の問題解決行動や研究を推奨します。
- (5)SCAN 事務局機能を強化し、また SCAN 参加校、高校のネットワークを強化し、参加校からの情報提供、地域課題情報、企業依頼情報、行政関係情報の発信(イベント案内、研究会案内、研修会案内等)し、研究促進や活動促進につながる支援をします。
- (6)実現性の高い政策提言研究の促進を図ります。
- (7)SCAN の運営を札幌大学以外でも行い、幹事校内で運営を回す輪番制を実施検討します。

●2022年度事業について

2021年度は、行動が制限されるなかで、実現が可能な範囲で以下のいくつかの点に重きを置きました。

- (1)第1回ハイフレックス合同研究発表会を開催予定です。
- (2)実現可能な領域に踏み込んだ研究活動を奨励します。
- (3)今後も高校生チームの参加促進を図ります。
- (4)SNS を通じて、全国に活動を PR します。

2022年度 第13期 SCAN 実行委員会メンバー

役職	氏名	学年
運営代表	奥寺 洸矢	3年
企画代表	廣島 優奈	3年
渉外代表	石崎 萌絵	3年
広報代表	山田 真平	3年
会計担当	加藤 葵	3年
企画担当	青山 響 佐藤 里咲 藤原 光至	3年
	小林 奎太 吉川 桃恵	2年
渉外担当	前川 慶太 大嶋 浩成	3年
	川久保 剣心 上野 翔太郎	1年
広報担当	小坂 太陽 阿部 秀馬	3年
	亀井 康平	2年
	山北 悠介	1年

(札幌大学 地域共創学群)

○お問い合わせ

●SCAN 公式ホームページ

<http://scan-946.jimdo.com>

●YouTube

https://youtube.com/channel/UCm5XqhSCgzoh4_Pd8_FbFLw

●Twitter

https://twitter.com/scan_hokkaido

●運営本部

北海道学生研究会 SCAN 運営事務局 (札幌大学)

〒062-8520 札幌市豊平区西岡 3 条 7 丁目3-1 札幌大学

E-mail scan_su@yahoo.co.jp

学生代表 奥寺 洸矢

E-mail naka-ken@sapporo-u.ac.jp /研究室 TEL & FAX 011-852-9015)

顧問 中山 健一郎

(札幌大学地域共創学群 教授)

北海道学生研究会

SCAN